

ABSORBING ARTICLE

Publication number: JP8182702 (A)

Publication date: 1996-07-16

Inventor(s): SUZUKI YOICHI; KONNO REIKO; TOYOSHIMA YASUO;
NAKANISHI MINORU +

Applicant(s): KAO CORP +

Classification

- International: A61E13/15; A61E13/494;

7): A61F13/15

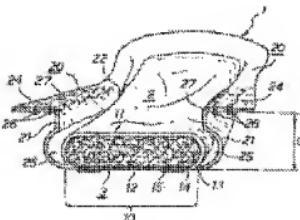
- European:

Priority number(s): JP1994

Abstract of JP 8182702 (A)

PURPOSE: To provide an absorbing article ideal for night and for a long-time use by achieving excellence in fitness to a part in contact with a discharging part of a user in wearing to reduce the possibility of side-wise and rear-wise leakage. **CONSTITUTION:** A central absorbing body part 10 includes a top sheet 11, a back sheet 12 and an absorbing body 13 and a flap 20 is formed on both left and right side parts of the central absorbing body part 10. In the flap 20, leakproof walls 21 are arranged successively on the non-skin contact side, positioned on both left and right side rims of the central absorbing body part 10 being bent toward the top sheet side thereof and then folded back outward from the central absorbing body part 10 to form a leakproof surface.; The leakproof walls 21 are fixed on the central absorbing body part 10 at the front and rear portions of a part in contact with a discharging part of a user in wearing and the leakproof surface at the above part is formed in a surface almost parallel with the skin contact face of the central absorbing body part 10.

Also published as:



Data supplied from the espacenet database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-182702

(43)公開日 平成8年(1996)7月16日

(51)Int.Cl.⁹
A 6 1 F 13/15

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 F 13/ 18 3 2 0
A 4 1 B 13/ 02 K

審査請求 未請求 請求項の数5 O.L. (全9頁)

(21)出願番号

特願平6-326367

(71)出願人

000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(22)出願日 平成6年(1994)12月27日

(72)発明者 鈴木 陽一

栃木県宇都宮市下河原1-3-33 ナイス
アーバン下河原306

(72)発明者 今野 玲子

栃木県河内郡上三川町上菖生2166 花王上
三川社宅

(72)発明者 登島 泰生

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606-6 花王赤
羽寮

(74)代理人 弁理士 羽鳥 修 (外1名)

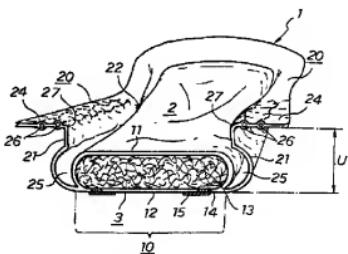
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 吸収性物品

(57)【要約】

【目的】 着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に虞れ、横漏れや後ろ漏れの生じる惧れが少なく、夜用又は長時間用として好適な吸収性物品を提供すること。

【構成】 トップシートとバックシートと吸収体とを具備する中央吸収体部、及び中央吸収体部の左右両側部に形成されたフラップを有し、上記フラップは、非肌当接面側に連設され、中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて中央吸収体部の左右両側縫に位置する防漏壁をそれぞれ形成し、中央吸収体部の外方にに向けて折り返されて防漏面を形成しており、防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において中央吸収体部に固定されており、上記の部位における防漏面が中央吸収体部の担当接面と略平行な面状に形成されている吸収性物品。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シート間に配されてなる吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたラップを有する吸収性物品において、

上記ラップは、上記吸収性物品の非肌当接面間に連設されており、また、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部の外方にに向けて折り返されて防漏面を形成しており、

上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている、

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】 上記防漏面に弹性部材が配されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項3】 上記ラップは、上記トップシートの延長部と上記バックシートの延長部とを貼り合わせて形成していることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項4】 上記ラップは、上記トップシート又は上記バックシートにより形成していることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項5】 上記ラップは、上記トップシート及び上記バックシート以外の他のシートにより形成されており、該他のシートは、防水処理を施したシート又は液不透過性シートであることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、生理用ナフキン等の体液を吸収するために肌に接触して着用される吸収性物品に適し、詳しくは、特に横漏れの防止性能に優れた吸収性物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来より、紙おむつ、生理用ナフキン等の吸収性物品は、種々提案されており、実用に供されているが、横漏れにより使用者の着衣を汚損することがあり、これにより使用者に不快感を与えるといった問題があるため、この問題を解消すべく種々改良がなされている。

【0003】例えば、吸収性物品の長手方向両側に防漏壁を形成すること、吸収性物品自体の形状を予め装着部位の形状に対応した形状とすること、弹性体を設けて装着時における形態の変化に追従しうるようにすること等が提案されており、具体的には、実公昭60-19693

号公報には、トップシートとバックシートとを左右両側方で貼り合わせたラップ部分を吸収性物品の表面に折り曲げてなる吸収性物品が提案されており、特公昭60-3491号公報には、トップシートとバックシートとを左右両側方で貼り合わせたラップ部分を吸収性物品の表面に折り曲げた後、更に外側に向けて折り返してなる吸収性物品が提案されている。

【0004】しかし、上述の吸収性物品は、使用者が排泄部を吸収体中央部に位置させ、身体に密着した下着を着用する装着状態では、吸収体本体からの液漏れを低下させるものの、未だ完全に液漏れを抑制するには至っていない。特に、実際の使用時においては、吸収性物品の装着状態が上述の装着状態ばかりではなく、排泄部が吸収体の中央部より離れた状態で装着されたり、装着された吸収性物品が着用者の動きによる複雑な形態に追従し得ず、吸収性物品と装着部位との間に隙間ができるたりする場合があり、このような場合、上述の吸収性物品では着用者の満足のいく液漏れ防止効果が得られないのが現状である。また、上述の吸収性物品は、いずれも折り曲げたラップ部分の前後両端を、吸収性物品の前後両端部において吸収性物品と接着させたものであり、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性が十分ではなく、依然として横漏れを生じるものであつた。

【0005】従って、本発明の目的は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる惧れが少ない吸収性物品を提供することにあった。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明者は、上記問題点を解消するために観察検討した結果、特定形状のラップを有する吸収性物品が、上記目的を達成し得ることを知った。

【0007】本発明は、上記知見に基づいてなされたもので、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シート間に配されてなる吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたラップを有する吸収性物品において、上記ラップは、上記吸収性物品の非肌当接面間に連設されており、また、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部の外方にに向けて折り返されて防漏面を形成しており、上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている、ことを特徴とする吸収性物品を提供するものである。

【0008】

【作用】本発明の吸収性物品は、非肌当接面側に連設されたフラップが、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて防漏壁を形成しており、更に折り返されて防漏面を形成している。また、上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、これにより、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている。そして、本発明の吸収性物品である生理用ナプキンは、このような構造を有することにより、フランプと中央吸収体部との間にサイドポケットが形成され、上記トップシートの表面上に液体が貯留しても該液体がフランプを伝わって漏れることなく、また、防漏面を生理用ナプキンの肌当接面上よりも高い位置に設けることができるので、吸収体がより厚くなてもフィット性が低下することがない。また、防漏面が着装時に着用者の肌に沿って広がり、フランプが吸収体に折り込まれることがないため、安定してサイドポケットが形成され、更には、吸収体のよれが抑制される。

【0009】

【実施例】以下、図面を参照して本発明をより具体的に説明する。ここで、図1は、本発明の吸収性物品の第1の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図であり、図2は、図1に示す生理用ナプキンの断面斜視図(ナプキンの長手方向を中心部にて幅方向に断面をとり、該断面からナプキンの前方部にかけて示す新規図)である。尚、図2において、断面形状は、模式的に示してある。

また、図3は、図1に示す生理用ナプキンの平面図であり、図4は、図1及び図3に示す生理用ナプキンの断面を示す模式図であり、図4(A)は、図3のI—I断面を示す模式図であり、図4(B)は、図3のII—II断面を示す模式図であり、図4(C)は、図3のIII—III断面を示す模式図であり、図4(D)は、図3のIV—IV断面を示す模式図である。

【0010】図1～図4に示す本実施例の生理用ナプキン1は、液透過性のトップシート11と、液不透過性のバックシート12と、両シート間に配されてなる吸収体13とを具備する中央吸収体部10、及び該中央吸収体部10の左右両側部に設けられたフランプ20を有する。このような構造は、通常の生理用ナプキンと同様の構造である。

【0011】更に、本実施例の生理用ナプキン1について説明すると、上記トップシート11及び上記バックシート12は、それぞれ延長部を有するように、上記吸収体13よりも全体に大きく形成されている。そして、上記フランプは、上記トップシートの延長部と上記バックシートの延長部とを貼り合わせて形成されている。また、これにより、前方端部4及び後方端部5を形成している。ここで、上記トップシート11及び上記バックシート12は、ヒートシール法、接着剤法等の通常の方法

によって貼り合わされている。

【0012】また、上記吸収体13は、図2及び図4に示すように、吸収体固定剤14を介して上記バックシート12に固定されている。

【0013】また、上記生理用ナプキン1の中央吸収体部10における非肌当接面3側の両側には、生理用ナプキン1の使用時ににおいて該生理用ナプキン1をショーブルに貼着するためのズレ止剤15が設けられている。

【0014】上記トップシート11及び上記バックシート12を形成する材料としては、通常、生理用ナプキン等の吸収性物品のトップシート及びバックシートとして用いられるものであれば特に制限なく、用いることができる。また、上記吸収体13は、パラブロム及高吸収性ポリマー等からなる通常公知の吸収体特に制限なく用いることができる。更に、上記吸収体固定剤14及び上記ズレ止剤15としては、通常、生理用ナプキン等の吸収性物品に用いられる接着剤を特に制限なく、用いることができる。

【0015】而して、本実施例の生理用ナプキン1は、図1～図3に示すように、上記フランプ20が、上記生理用ナプキンの非肌当接面3側に連設されており、また、上記中央吸収体部10のトップシート11間に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部10の左右両側縁に位置する防漏壁21をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部10の外方に向けて折り返されて防漏面24を形成しており、上記防漏壁21は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位6の前方部及び後方部において、上記中央吸収体部10に固定されており、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面24が上記中央吸収体部10の肌当接面22と略平行な面状に形成されている。

【0016】更に詳細に説明すると、図2及び図4(A)～(D)に示すように、上記トップシート11は、上記吸収体13の側面を覆って、その延長部を上記バックシート12の延長部に貼り合わせられており、これにより、上記トップシート11の延長部と上記バックシート12の延長部とに取り形成される上記フランプ20が、上記非肌当接面3側に連設されている。

【0017】また、上記フランプ20は、図2及び図4(A)～(D)に示すように、上記中央吸収体部10の側縁にいて折り曲げられることにより、上記防漏壁21を形成しており、更に、図2及び図4(B)～(D)に示すように、生理用ナプキン1の肌当接面22よりやや上方にて上記中央吸収体部10の外方に向けて折り返されて、上記防漏面24を形成している。

【0018】また、上記防漏壁21は、上記の排泄部に当接する部位6の前方部及び後方部において、前方部の固定部22(図1、図3及び図4(B)～(D)参照)及び後方部の固定部23(図1、図3及び図4(D)参照)を介して上記中央吸収体部10における上記トップシート11

1に固定されている。ここで、上記の「排泄部に当接する部位」とは、生理用ナフキンの使用時において、着用者の排泄部に当接される生理用ナフキンの表面部分を指し、具体的には、生理用ナフキンの長手方向に対する上記固定部2と上記固定部2との間に位置する部分である。また、上記「前方部」とは、上記の排泄部に当接部位6よりも前方（着用者における前側）に位置する部分の全てを指し、上記「前方部」とは、上記の排泄部に当接部位6よりも後方（着用者における後側）に位置する部分の全てを指し、上記後方緑部も含む。また、上記固定部2、2、3は、通常、吸収性物品に用いられる接着剤等を用いて又はヒートシール等により容易に形成することができる。

【0019】そして、このように、固定されていることにより、図2及び図4（C）に示すように、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面2と上記中央吸収体部1の肌当接面2と略平行な面状に形成されている。また、図2、図3及び図4（C）に示すように、上述の如く固定されていることにより、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面2が、上記肌当接面2のやや上方において、上記中央吸収体部1の肌当接面2と略平行な面状に形成されている。

【0020】また、図1～4に示すように、本実施例の生理用ナフキン1は、上記前方緑部4及び後方緑部5において上記フック20をヒートシールせずに、前方部の固定部2より前方（生理用ナフキンにおける使用時に着用者の前側に位置する部位）及び後方部の固定部2より後方（生理用ナフキンにおける使用時に着用者の後側に位置する部位）においては、それぞれ前方又は後方に向かうに従って次第に上記の折り返された状態が解除されて、上記フック20を略平行な面状形状としている。このように形成することにより、上記防漏面2の肌当接面2との略平行な面状及び上記サイドホールケット25で安定して形成・保持することができる。

【0021】また、本実施例の生理用ナフキン1において、上記排泄部に当接する部位6の長さLは、好ましくは3～20cmであり、更に好ましくは5～15cmである。また、上記生理用ナフキン1において、上記固定部2より前方に位置するナフキン前方部の長さMは、好ましくは0～10cmであり、更に好ましくは2～8cmである。更に、上記生理用ナフキン1において、上記固定部2より後方に位置するナフキン後方部の長さNは、好ましくは3～25cmであり、更に好ましくは5～18cmである。

【0022】また、上記排泄部に当接する部位6における上記防漏面2の幅Sは、好ましくは0.5～4cmであり、更に好ましくは0.7～2.5cmである。0.5cm未満であると、上記漏闘2が中央吸収体部1上に倒れてサイドホールケット25が形成されない場合があり、4cmを超えると、防漏面2の平面形状

が維持し難く、更には、液漏れを誘発する場合があるので、上記範囲内とするのが好ましい。また、上記防漏面2の高さ（非肌当接面3からの高さ）U（図2参照）は、好ましくは40mm以下、更に好ましくは5～25mmである。また、上記排泄部に当接する部位6における左右両防漏面2の幅Tは、該防漏面2が中央吸収体部1の肌当接面2を塞がないように、30mm以上であるのが好ましい。

【0023】本実施例の生理用ナフキン1は、上述の如き構造を有しているので、上記防漏面2が着用者の肌に良好にフィットし、横漏れを効果的に防止することができるものであり、具体的には上記サイドポケット25が形成されることにより、上記トップシート11の表面を流れた排泄物が上記サイドポケット25に一旦流入した後、上記中央吸収体部1の側面から上記吸収体13に吸収され、横漏れを効果的に防止することができるものである。

【0024】また、本実施例の生理用ナフキン1は、上記防漏面2の上記の排泄部に当接する部分にそれぞれ弾性部材26が配されている。上記弾性部材26が配されていることにより、上記防漏面2の形状が良好に維持され、また、上記防漏面2の上記中央吸収体部1の肌当接面2と略平行な面状形状が良好に維持され、更には着用者に対するフィット性がより向上される。また、このように防漏面24（折り返し縫27（図2参照）より外方）に弾性部材26を配することにより、上記サイドポケット25形状を大きくることができ、横漏れを効果的に防止することができる。上記弾性部材26としては、通常、吸収性物品に用いられる弾性部材であれば、特に制限はないが、ボリオレンジ類、ボリウレタン類の発泡体や天然ゴム等を特に好ましく用いることができる。また、その形状は、紐状、フィルム状、平面状等の形状化することができ、本実施例においては、紐状の弾性部材を用いている。また、該弾性部材26の本数は特に限られないが、該弾性部材26が紐状の形状である場合、2本以上であるのが、形状保持、横漏れ防止の点から効果的である。また、上記弾性部材26は、上記の弾性部材26を配した上記フック20の20%伸長時の応力が100g以下となるような弾性力を有するものを用いるのが好ましい。尚、本発明の吸収性物品は、上述の実施例に限定されるものではなく、例えば、使い捨ておむつ等に適用することもできる。

【0025】次に、本発明の吸収性物品の第2～第5の実施例について、図5～図8を参照して説明する。ここで、図5は、本発明の吸収性物品の第2の実施例としての生理用ナフキンを示す断面図（図4（C）相当図）であり、図6は、本発明の吸収性物品の第3の実施例としての生理用ナフキンを示す断面図（図4（C）相当図）であり、図7は、本発明の吸収性物品の第4の実施例としての生理用ナフキンを示す断面図（図4（C）相当

図】であり、図8は、本発明の吸収性物品の第5の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図(図4(C)相当図)である。尚、第2の実施例～第5の実施例において特に説明しない点は上述した第1の実施例と同じである。

【0026】図5に示す第2の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップ20が、上記トップシート11により形成されている。具体的には、上記トップシート11を非肌当接面3側で一端上記バックシート12と接合し、更に、左右両側縫を外方に向けて延長して形成されており、これにより、上記フラップ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フラップ20は、上記の第1の実施例におけるフラップ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縫で非肌当接面3に向けた折り返されており、弹性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0027】図6に示す第3の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップが、上記バックシートにより形成されている。具体的には、上記バックシート12を非肌当接面3側で一端上記トップシート11と接合し、更に、左右両側縫を外方に向けて延長して形成されており、これにより、上記フラップ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フラップ20は、上記の第1の実施例におけるフラップ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縫で非肌当接面3に向けた折り返されており、弹性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0028】図7に示す第4の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップ20が、上記トップシート11及び上記バックシート12以外の他のシート30により形成されている。

【0029】上記の他のシート30としては、防水処理を施したシート又は液不透過性シート等を用いることができる。上記の防水処理を施したシートとしては、撥水性油剤で処理した不織布等を挙げることができ、上記の液不透過性シートとしては、エチレン、ポリプロピレン等のプラスチックシート、又は不織布をラミネート加工したシート等を挙げることができる。

【0030】更に詳述すると、上記トップシート11は、吸収体13の左右両側面を覆って非肌当接面3側の

左右両側縫まで被覆しており、上記他のシート30は、その縫部が、非肌当接面3側において、上記トップシート11と上記バックシート12とにより挟持固定されており、これにより、フラップ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フラップ20は、上記の第1の実施例におけるフラップ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縫で非肌当接面3に向けた折り返されており、弹性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0031】図8に示す第5の実施例の生理用ナプキン1は、上記フラップ20が、上記トップシート11及び上記バックシート12以外の上記の他のシート30により形成されており、更に、非肌当接面3側には、上記吸収性部材1の使用時に下着と固着させるための粘着部41を有するウイング部40が設けられている。

【0032】更に詳述すると、上記トップシート11は、吸収体13を、その左右両側面を覆って非肌当接面3側の左右両側縫まで被覆しており、上記他のシート30は、非肌当接面3側において、上記トップシート11と上記バックシート12とにより挟持固定されており、これにより、フラップ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フラップ20は、上記の第1の実施例におけるフラップ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縫で非肌当接面3に向けた折り返されており、弹性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。また、上記ウイング部40は、上記バックシートの左右両側縫を吸収体の左右両側縫から外方に向けて延長して形成されており、上記粘着部41は、上記ウイング部の非肌当接面3側に粘着剤を塗布して形成されている。該粘着剤としては、通常公知の粘着剤特に制限なく用いることができる。

【0033】上記の第2～第5の実施例においても上述の第1の実施例と同様の効果が奏される。

【0034】次いで、図9及び10を参照して、本発明の吸収性物品の第6の実施例について説明する。ここで、図9は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す平面図であり、図10は、図1に示す生理用ナプキンのV-V断面を示す模式図である。尚、特に説明しない点については、上述した第1の実施例と同様に形成されている。また、図9におけるII-II断面図～IV-IV断面図は、それぞれ図4(B)～(D)と同じである。

【0035】而して、本実施例の生理用ナプキン1は、図9及び図11(A)に示すように、生理用ナプキン1の前方縫部4ににおいて、折り返されたフラップ20は、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールされて、固定されている。また、図9及び図10(B)に示すように、後方縫部5において、上記フラッ

ア20は略フラットな面形状をなしている。即ち、本実施例の生理用ナプキン1は、固定部22より前方(生理用ナプキンにおける使用時に着用者の前側に位置する部位)においては、上記中央吸収部10と上記フ lap20とが当接する部分の全域に上記サイドポケットが形成されるよう構成されており、固定部23より後方(生理用ナプキンにおける使用時に着用者の後側に位置する部位)においては、後方に向かうに従って次第に上記の折り返された状態が解除されて、上記フ lap20がフラットな形状となるよう構成されている。

【0036】本実施例の生理用ナプキン1は、上述の如き構造を有しているので、特に横漏れ及び後ろ漏れを効果的に防止することができるものであり、夜用又は長時間用として好適である。

【0037】尚、本発明の吸収性物品は、上述の実施例に限定されるものではなく、例えば、図1～図4に示す第1の実施例において、下記の如き構成することもできる。即ち、本発明の生理用ナプキン1においては、その前方縁部4及び後方縁部5において、折り返されたフ lap20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定してもよい。これにより、上記の排泄部に当接する部位6における上記フ lap20の形状を良好に維持することができ、更には、上記中央吸収部10と上記フ lap20とが当接する部分の全域に上記サイドポケットを形成することができる。

【0038】また、図1～4に示す第1の実施例のように、前方縁部4及び後方縁部5において、折り返されたフ lap20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定した場合には、上記の前方部及び後方部の固定点22、23を固定しなくてもよい。更に、第1の実施例では、図4(D)に示すように、上記中央吸収部10の表面(肌当接面)で上記防漏壁21をトップシート11に固定した例で説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、上記中央吸収部10の側面で上記防漏壁21をトップシート11に固定してもよい。

【0039】また、図1～4に示す第1の実施例においては、防漏壁の中央吸収体部への固定を点状に固定した例により説明したが、線状(吸収性物品の長手方向に沿った線状)に固定することもできる。この際、該線状の固定は、上記固定点と同様に接着剤又はヒートシール等により固定することができ、また該線状に固定して形成される固定部の長さは任意であり、上記の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部に形成される固定部の少なくとも何れか一方は、前方縁部又は後方縁部まで及んでいてよい。

【0040】

【発明の効果】本発明の吸収性物品は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる惧れが少ないものであり、具体的には、下

記効果へが奏される。

フ lapと中央吸収体部との間にサイドポケットが形成され、上記トップシートの表面より体液が流れても該体液がフ lapを伝わって漏れることがない。

防漏面を生理用ナプキンの肌当接面よりも高い位置に設けることができるので、吸収体がこれまで厚くなつてもフィット性が低下することがない。

防漏面が着者時に肌に沿って広がり、フ lapが吸収体に折り込まれることがなく、安定してサイドポケットを形成することができる。

防漏面が肌に沿って広がることにより吸収体のよれが抑制される。

防漏壁と防漏面とにより液モレが抑制される。

防漏面により、フ lapの肌に対する広がりを促進でき、肌に対するフィット性を向上させて、違和感を低減させることができる。

前後方縁部でフ lapを固定せずに、前後方縁部では該フ lapが外方に開放して略フラットな面形状をなすようにした場合には、この開放されたフ lapにより、防漏面の肌当接面に対する略平行な形状及び防漏壁により形成されるサイドポケットを安定して形成、保持することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の吸収性物品の第1の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図である。

【図2】図2は、図1に示す生理用ナプキンのA-A'断面斜視図である。

【図3】図3は、図1に示す生理用ナプキンの平面図である。

【図4】図4は、図1及び図2に示す生理用ナプキンの断面を示す模式図であり、図4(A)は、I-I断面を示す模式図であり、図4(B)は、II-II断面を示す模式図であり、図4(C)は、III-III断面を示す模式図であり、図4(D)は、IV-IV断面を示す模式図である。

【図5】図5は、本発明の吸収性物品の第2の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図(図4(C)相当図)である。

【図6】図6は、本発明の吸収性物品の第3の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図(図4(C)相当図)である。

【図7】図7は、本発明の吸収性物品の第4の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図(図4(C)相当図)である。

【図8】図8は、本発明の吸収性物品の第5の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図(図4(C)相当図)である。

【図9】図9は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す平面図である。

【図10】図10は、図9に示す生理用ナプキンの断面

を示す模式図であり、図10(A)は、I—I断面を示す模式図であり、図10(E)は、V—V断面を示す模式図である。

【符号の説明】

- 1 生理用ナフキン
- 2 肌当接面
- 3 非肌当接面
- 10 中央吸収体部
- 11 トップシート
- 12 バックシート
- 13 吸収体

- 14 吸収体固定剤
- 15 ズレ止剤
- 20 フラップ
- 21 防漏壁
- 22 固定部
- 23 固定部
- 24 防漏面
- 25 サイドポケット
- 26 弹性部材
- 30 他のシート
- 40 ウイング部

【図1】

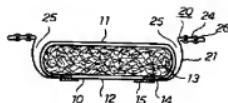
【図2】

【図3】

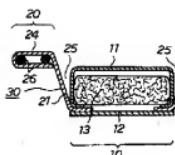
【図4】

【図5】

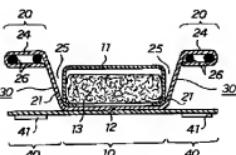
【図6】



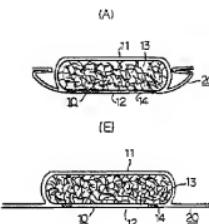
【図7】



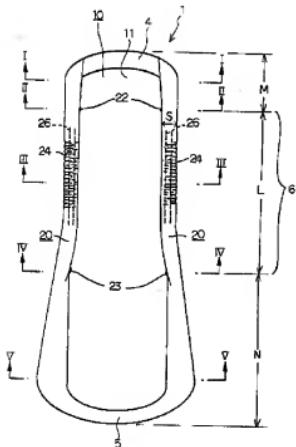
【図8】



【図10】



【图9】



【手稿補正書】

【提出日】平成7年3月16日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正内容】
【0034】次いで、図9及び10を参照して、本発明の吸収性物品の第6の実施例について説明する。ここで、図9は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナップキンを示す平面図であり、図10は、図9に示す生理用ナップキンの断面を示す模式図であり、図10(A)は、I—I断面を示す模式図であり、図10(B)は、II-II断面を示す模式図であり、図10(C)は、III-III断面を示す模式図である。

(E) は、V-V断面を示す模式図である。尚、特に説明しない点については、上述した第1の実施例と同様に形成されている。また、図9におけるII-II断面図～IV-IV断面図は、それぞれ図4(B)～(D)と同じである。

【手續補正2】

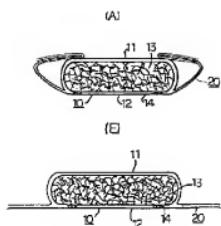
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1-0

【補正方法】夢更

【補正內容】

【图10】



フロントページの続き

(72)発明者 中西 稔
栃木県河内郡南河内町緑三丁目23-11